

在留外国人数は新型コロナウイルス感染症の拡大により一旦減少したものの、令和4年6月末の統計では296万1,969人（出入国在留管理庁ホームページ）となっており、在留外国人数は回復しつつあります。

この研修では、外国人と接する機会が増えている消防職員を対象に、非常時において外国人を救援救助する活動が迅速・的確に行えるよう、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法を学びます。

受講を希望される場合は、令和5年2月8日（水）までに「令和5年度 JIAM 年間派遣計画書」を nenkan@jiam.jp へメールにてお送りください。申込手続きの詳細は、「令和5年度研修計画」をご参照ください。

消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

- （日程） 5月10日（水）～5月26日（金） 17日間
- （内容）
- ・自治体の危機管理
 - ※予定
 - ・異文化理解
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・自治体の事例紹介（外国人への情報提供等）
 - ・リスクコミュニケーション
 - ・外国人観光客への対応
 - ・施策立案演習
 - ・語学研修
 - 共通：英語
 - 選択：中国語又はポルトガル語 など
- （対象） 消防職員（自治体の防災担当職員含む）
- （受講経費） 概ね 72,000 円
- （予定人数） 30 名



ボイストラを使用した演習の様子
（事例紹介）



英語での救助実演の様子

■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA（国際協力機構）からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。

■ 参加者の声

- 外国人講師からも授業を受けることができ、実践的で非常に有意義でした。
- 職場でどのようにフィードバックするのか。リアルな話を聞いたので、とても参考になりました。

当研修所では新型コロナウイルス感染症の感染予防・感染拡大の対策を講じたうえで、研修を実施しております。詳しくはホームページをご覧ください。（<https://www.jiam.jp>）